

## 第1回 東大本番レベル模試 答案採点例

### 第一問 (現代文)

(一)

○貨幣を必要としない自然や共同体が解体され、引き離され、貨幣のみが貧富や幸不幸を決定する社会に投げ込まれ、そこで金銭を持たないこと。(5点)

△自然の空間から切り離され、共同体を失った上に、金銭を必要とする生活の形式の中におかれること。

→ 「貨幣への疎外」しか説明できていない。「貨幣からの疎外」＝「金銭をもたない」ことも説明する。(4点)

(二)

△二重の疎外が貧困の基礎的概念だという正しい認識がされていないばかりか、長期的に不孝を増大する開発主義的な誤った政策を基礎づけること。

→ 「正しい認識」をせずに、どういう認識をしているのかを具体的に説明できるとよかった。(3点)

(三)

※「言っていることはわかるが、説明しにくい」といった問題。十分な解答が書けている人は少なかった。

△現代の情報消費システムが、それ自体の運動の中で生成し、設定する絶対的な必要の地平を満たし、高度の商品化された物資とサービスに依存して生きること。(2点)

(四)

△情報消費社会のシステムは、貨幣量によってのみ充足される「必要」の基準を引き上げていくが、その「必要」に対応することは関知しないから。

→ 「先進国での貧困」「北の貧困」といった語がほしい。(4点)

△「北の貧困」は、情報消費社会自体が人々の必要なものを設定する一方で人々の必要への対応には関知しないことでひきおこされる。

→ 波線部は、「貨幣」という語を入れて説明したい。(4点) また、理由説明をするときは、文末は「から・ため」でまとめる。

(五)

※「北の貧困」「南の貧困」に共通する「同一の論理」は「二重性」にあることを理解したうえで、それぞれの「二重性」(問一や問四で答えた内容)を的確に説明したい。

今回の答案の中では、次のようなものが高レベルの答え。

△「北の貧困」は、はじめに原的な解体と剥奪があり、貨幣的必要の絶対性への従属があり、その上で増大する貨幣量によつてしか充足されない「必要」が現代の情報消費社会のシステムによつて離陸されている、という二重性による不孝の構成は「南」と同じである。

→ 共通点が「二重性」にあることは理解できているが、「北の貧困」の二重性の説明に偏つてしまった。「南」の二重性についても具体的に述べる。(6点)

△「南の貧困」が貨幣を媒介しないと豊かさを得られない生活に投げ込まれた上に、貨幣を得られずに生じるのと同様、「北の貧困」は現代の情報消費社会のシステムに組み込まれた上で、新たに更新される必要の水準を満たせずに生じ、共に二重性が貧困を生むこと。

→ 「北」「南」ともに二重性の中身まで説明できた。模範解答と見比べ、さらにわかりやすい表現を追求しよう(問題文のキーワードである「二重の疎外」という語を使うと的確)。(6点)